

平成30年度 第1回入学試験

受験番号	
氏名	

国語

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- この問題冊子は10ページです。
- 試験時間は50分です。
- 受験番号・氏名は、問題冊子・解答用紙の両方に書きなさい。
- 文字・記号などを正しくはっきり書き、答えは解答用紙に記入しなさい。



一次の①～⑩について、——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 地球はタイヨウケイの惑星の一つである。
- ② 算数の時間に立体のテンカイズを書いた。
- ③ 気分転換に部屋のモヨウ替えを試みた。
- ④ 彼は一人で日本列島ジュウダンの旅に出た。
- ⑤ 東京で日韓のシユノウ会談がおこなわれた。
- ⑥ 街中で同郷の先輩にばったり会った。
- ⑦ 提出された議案が委員会で否決された。
- ⑧ 久しぶりの三連休を思う存分に楽しんだ。
- ⑨ ここは火気厳禁ですのでご注意ください。
- ⑩ 父は特派員として現地におもむくことになった。

二次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の——線部の漢字にまちがいがあるものをすべて選び記号で答えなさい。

- ① クラス全員が異工同音に賛成の意を表した。
- ② 日本国中が驚く前代未間の出来事が発生した。
- ③ 文庫本は売りに出しても二束三文にしかならない。
- ④ 三年ぶりに祖父母に会える日を一日千秋の思いで待つ。
- ⑤ 彼は意見を述べる時にいつも意味深長な言い方をする。
- ⑥ 期待の大きい大臣ではあったが、結局は有名無実の存在だった。

問二 次の①～④の()に共通してあてはまる漢字一文字を書きなさい。また、完成した四つの慣用句の中から一つを選び、その慣用句を用いて、十字以上、二十字以内の短文を作りなさい。(句読点をふくむ。)

- ① () が高い
- ② () につく
- ③ () を明かす
- ④ () であしらう

問三 「木材」「並木」という熟語は「木」という字の読み方がちがいます。このように一つの漢字の読み方を変えて、二字の熟語の組み合わせを作りなさい。また、それぞれの読み方を答えなさい。ただし、「木」以外で答えること。

問四 次の①～⑤の——線部の言葉の意味を後のア～カから選んだ時、一つだけどれにも当てはまらないものがあります。それを記号で答えなさい。

- ① 友人の忠告をきく。
- ② 父は芸能界に顔がきく。
- ③ この食品は長期間の保存がきく。
- ④ 算数の問題の解き方を先生にきく。
- ⑤ この薬はやけどやすりきずによくきく。

ア 通用する イ 質問する ウ 可能である エ 区別する オ 聞き入れる カ 効果がある

問五 次の文を「犬のリッキーは」ではじまる文に書き換えなさい。

妹は犬のリッキーをとともかわいがっている。↓犬のリッキーは（ ）。

三次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「故郷」は次のような歌詞である。

① 兔追ひし かの山

小鮒釣りし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき 故郷

如何にいます 父母

恙なしや 友がき

雨に風に つけても

思ひ出づる 故郷

志を はたして

いつの日にか 帰らん

山は青き 故郷 水は清き 故郷

この歌を聞けば、古い世代はなつかしい田園地帯の景色を思い浮かべるであろう。若い世代は、情景は浮かばないが、何度か聞いたことがあるという程度かもしれない。あるいは、自分は都会で育ったけど、故郷を思い出す世代について想像するという人もいるだろう。

私は戦後の「団塊の世代」に属すが、この歌は子供の頃からよく聞き、歌いもした。大人になって友人と談笑してこの歌の事になり、「あれ、ウサギがおいしいって思っていた」、「ウサギがおいしい山ってどういう意味だよ」などと笑い合ったりする。それだけ、

① できる歌だといえる。歌は世代によって好まれるものが大いに違い、歌に興味をもつようになる中学、高校生くらいに聞いた歌は、三年も違うと入れ替わるから、一〇歳も違う世代の歌は知らないということもよくある。そのことを思えば、「故郷」は世代を超えて① できる数少ない歌といえるだろう。歌詞もメロディーも心に染み入るといえる気がする。

さて、この歌の歌詞は「兔追ひし」で始まるが、それでわかるのは、この歌が作られた頃は、日本人の多くがウサギを追った体験をしていたということであろう。だが、今、野生のウサギを見たことのある人さえごく少なく、まして追いかけたことのある人はほぼいないといってよいだろう。そもそもウサギのいそうな場所がなくなってしまった。② この変化は一体何を意味するのだろうか。

歌詞は、ウサギの次に「小鮎釣りし」と続くが、今、魚とりをしたことのある人はいても、フナ釣りをしたことのある人はどれだけいるだろうか。このことは、「故郷」ができて愛唱されていた時代と現代とで、魚のすむ川が大きく変化したことを意味する。

「故郷」に出て来る動物はウサギとフナだけだが、そのいずれもが現代人がほとんど目にするものがなくなっている。それはこうした動物がすむ場所が大きく変化したことによるもののようなのだ。

歌詞には、動植物ではないが「山は青き」、「水は清き」ともある。これは故郷を遠くから想像して、子供時代に目に焼きついた山や川のことを思い出しているようすを描いたものと思われる。山は林のある場所であり、その青い山の手前には田畑があり、人の暮らしもあることを連想させる。都市では水は水道から出て来るもので、都市にある川の水は汚れている。かつての日本の山野に流れる川の水は底まできれいに見え、さらさらと音を立てて流れていた。同じ水でもまったく違う。これらの歌詞は、そういう思いを歌ったものであろう。

ウサギやフナがいて、青い山、清い水がある場所はもちろん都会ではない。 II このことは本書の中心的な意味をもっているので、少しいねいに説明しておきたい。

私たちは自然が貴重なものであり、大切に守らなければいけないものであることは理解している。誰だつて植物が枯れたり、動物が死ぬことはよくないことだと思ふ。だから、縄文杉を守りたい、パンダを守りたいという思いは社会に共有されている。このように、みんなが守らなければならないと思ふ自然は手つかずの「原生的自然」であり、人の影響が加わると失われてしまうものである。だから、その貴重な自然をなくさないように、人の影響を最少限にする努力がおこなわれている。

これに対して「故郷」に歌われた自然は人がいて野良仕事をするような場所だから、田畑がある場所、つまり農地である。農地は人の影響をなくすどころか、人がいて成り立つ場所である。人は自然界から食べ物やそのほか利用できるものを見つけ出して、必要に応じて品種改良するなどして、食物を生産してきた。それが農業であり、自然と人を対立する図式で考えれば、農地は人の側にある空間といえる。しかし、農作物や家畜が動植物である限り、自然から離れることはできず、人が自然を管理することで維持されるものである。その意味では「半自然」といえるだろう。

さて、このような半自然のある場所は「里山」と呼ばれる。実は「故郷」の舞台となるのはこの里山なので、以下では里山について考えることにする。はじめに「里山」という言葉を確認しておこう。里山の「里」という言葉は、A 鄙とは田舎のこと、この言葉が使われた古代や中世では草深い場所のことを指し、B 里は多少とも人が多い場所、農家が集まった場所を指した。そして、C おおまかにいえば鄙が丘や山であるのに対して里は平地にあり、D 暮らしやすい場所というイメージがあった。その

時代の感覚でいえば、里は人によく管理されており、農作業などもしやすいが、鄙は自然と格闘しながら農作業をしなければならぬ。暮らしていく場所というところであろう。

⑤では、里山とは具体的にどういう場所であろうか。日本の農業は田んぼで米を作ることが基本である。田んぼは土木工事をして水を豊富に利用する。もちろん、農民は米以外にも野菜などを作るから農地には畑もある。これらを育てるには肥料もいるし、耕作には牛馬がいると作業がはかどったから、農家には家畜がいた。家畜の餌を確保するには「茅場」という草原が必要だし、茅場に生える茅は茅葺きの屋根を葺くにも使われた。

農民は「百姓」と呼ばれたが、それは百の姓、つまりあらゆる仕事をするという意味で、狭い意味の野良仕事のほか、食料加工業も、備蓄業も、土木工事も、汲み取りも、大工仕事も、機織りも、ある程度の医療や獣医業も、もちろん、裁縫も料理もおこなった。都市生活が分業で成り立っているのと比較すれば、ひとつの農家は小さいながら「総合企業」を運営していたといえる。

その意味で、里山では農作物を作る農業に加えて林業もおこなっていた。農家の裏には雑木林があったし、スギやヒノキの針葉樹林があった。これらも森林ではあるが、自然の木々が育ってできている「自然林」とは違い、雑木林は炭を作るために繰り返し伐採をし、そこから再生した木でできているし、スギやヒノキの林は苗を植えて育てた植林なので「人工林」と呼ばれる。雑木林も人工林も人が管理することで維持される半自然である。

現在、「里山」という言葉で意味するのは、こうした田畑、茅場、雑木林、人工林、それに池や川など、伝統的な農業をおこなうために必要であった土地の全体のことである。古い時代には里は鄙との対比で用いられたといったが、現代では「里山」は都市との対比で用いられ、田園地帯程度の意味に加えて、かつてのどかな農業がおこなわれている場所というイメージが加味されているように思う。そして、かつて里と対比的に位置づけられて鄙、つまり山村も含む半自然を「里山」と呼ぶようになった。

二章以降で詳しく述べるが、里山の植物や動物は、自然度が高い森林の植物や動物と違いがある。里山には人がいて、農作業をし、草を刈り取ったり、森林を伐採したりする。したがって、それでも大丈夫な動植物あるいは、そうしたことが有利であるような動植物が生活することになる。実はその代表的存在がウサギであり、フナである。

ここでは、「故郷」に歌われた自然がⅢな自然ではなく、里山のⅣであること、里山のⅣはⅤという営みの上に成り立つものであることを確認しておきたい。

(高槻成紀『唱歌「ふるさと」の生態学』より)

問一——線①「兎追ひし」とはどういう意味ですか。この後の本文から読み取り、答えなさい。

問二——

I

（二箇所ある）に入る言葉を次から選び記号で答えなさい。

ア 感動　イ 空想　ウ 安心　エ 共有

問三——線②「この変化は一体何を意味するのだろうか」とありますが、「この変化」は「何を意味」しているのでしょうか。わかりやすく説明しなさい。

問四——線③「の」と同じ働きの「の」を——線ア～オから選び記号で答えなさい。

問五——

II

には、次のア～ウの文が入ります。正しい順番に並べ記号で答えなさい。

ア とはいえ、北海道知床の大自然や屋久島の原生林とも違う。

イ だが、ツキノワグマやライチョウなどはいそもない場所でもあるらしい。

ウ どうやら描かれている情景は自然ではあるが、そこには人がいて野良仕事がおこなわれており、カブトムシやカエルなどもあるようなところのようだ。

問六——線④「『原生的自然』」を引き合いに、「故郷」に歌われた自然はどのようなところであると筆者は述べていますか。次から選び記号で答えなさい。

ア 「故郷」に歌われた自然は、手つかずの自然ではなく、自然と人が対立している場所であることから、「半自然」といえるようなところだと筆者は述べている。

イ 「故郷」に歌われた自然は、手つかずの自然ではなく、農地であり人がいて成り立つ場所であることから、「半自然」といえるようなところだと筆者は述べている。

ウ 「故郷」に歌われた自然は、手つかずの自然ではなく、人から受ける影響を排除しきれない場所であることから、「半自然」といえるようなところだと筆者は述べている。

エ 「故郷」に歌われた自然は、手つかずの自然ではなく、現在と古き良き時代の自然とが共存している場所であることから、「半自然」といえるようなところだと筆者は述べている。

問七 ～～線A「草深い場所」B「人が多い場所」C「丘や山」D「平地」E「暮らしやすい場所」F「暮らしにくい場所」を、本文の内容から二つのグループに分けた場合、どのような組み合わせになりますか。正しいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア〔A・C・E〕〔B・D・F〕
- イ〔A・D・E〕〔B・C・F〕
- ウ〔A・C・F〕〔B・D・E〕
- エ〔A・D・F〕〔B・C・E〕

問八 ―線⑤「里山とは具体的にどのような場所であろうか」とありますが、「里山」の説明としてふさわしくないものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 田畑、茅場など、伝統的な農業をおこなうために必要であった土地全体。
- イ 農民だけではなく都会から移住して来た人ものんびりと過ごせる田園地帯。
- ウ かつてののどかな農業がおこなわれている場所というイメージがあるところ。
- エ 古い時代には鄙との対比でも用いられ、現代は都市との対比で用いられるところ。

問九 ―線⑥「ひとつの農家は小さいながら『総合企業』を運営していたといえる」のはなぜですか。わかりやすく説明しなさい。

問十 ―線⑦「雑木林」⑧『「自然林」』⑨『「人工林」』の説明としてふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア 「雑木林」は炭を作るために繰り返し伐採しそこから再生した木でできた林であり、「自然林」は自然の木々が育つてできた林である。
- イ 「人工林」はスギやヒノキなどの苗を植えて育てた植林であり、「自然林」は林業を目的に動物などから人によって守られてきた林である。
- ウ 「自然林」は人の手が加わることなく自然に育った木々でできた林であり、「人工林」は科学技術を使うことでようやく維持が可能になる林である。
- エ 「雑木林」は農家が林業をおこなうために不可欠な林であり、「人工林」は林業のみならず幅広い分野で利用可能な木々が育てられている林である。

問十一——線⑩「その代表的存在がウサギであり、フナである」とありますが、「ウサギ」や「フナ」は、どういったことについての「代表的存在」であるのでしょうか。その説明としてふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 時の流れとともに自然が失われてしまったとしても、いつまでも私たちの生活に深い関わりを持ち続けている動植物たちの代表的存在。

イ 人間による森林伐採や農地開拓が原因で絶滅する生き物が多い中、それでも何とか生き延びることができている動植物たちの代表的存在。

ウ 人間の手が入っている自然の中でも生息することができ、また、そうした自然が生活するのに有利な環境となる動植物たちの代表的存在。

エ おとなになっても、子どもものころに見ていた里山の様子をいつも胸に宿しておきたいと願うような、故郷の風景を彩る動植物たちの代表的存在。

問十二

Ⅲ

Ⅳ

(二箇所)

Ⅴ

に入る言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

Ⅲ

Ⅳ

は漢字三文字、

Ⅴ

は漢字二文字の言葉が入る。

四次の文章を100字以内で要約しなさい。(句読点をぶくむ。)

久しぶりに実家に帰り、母親を見て驚いた。小太りの体が以前よりもすっきりし、姿勢も良くなっていた。聞けばトレーニングジムに通っているのだという。傘寿を迎えた母は膝が痛くなって「このままでは寝たきりになるかもしれない」と筋トレを始めたそうだ

▼高齢者がジムなどに通い、汗を流す姿を見掛けるようになった。健康寿命を延ばすことは、筋力の維持と大きく関わっている。筋力が衰えると、前かがみの姿勢となり両膝がゆがんで〇脚が進むなど、体に変形が現れる

▼人間総合科学大教授の熊谷修さんは著書で、中高年になったら積極的に肉を食べることを勧めている。筋肉など人の体は主にタンパク質でできており、それを豊富に含んでいる食品が肉だからだ

▼タンパク質は、魚や大豆でも取ることができる。しかし肉は、体内で合成できないため食べ物で補給しなければならない「必須アミノ酸」を効率的に取ることができるといわれている

▼実家の食卓に以前はあまり並ぶことがなかった肉料理を見て納得した。肉や卵などの良質なタンパク質を取る食事にしたリ、適度に運動したりして日々の暮らしに気を付ければ、老化による骨と筋肉の衰えを防ぐことができる。

(福島民友新聞「編集日記」平成二十九年六月四日)